

乱流輸送現象の解明に向けた数値シミュレーション

大阪大学 基礎工学研究科 本告 遊太郎

目的 混相乱流の維持機構や乱流による物質輸送能力を解明する。

内容 今年度は、固体粒子を含む乱流、気液界面を伴う流れの数値シミュレーションプログラムを開発・実行し、乱流輸送現象に関する新たな知見を得た。

結果 結果の例を右に示す。壁乱流中のさまざまな大きさの秩序構造（**縦渦**と**低速ストリーク**）を同定し、それらによる粒子の輸送を調べた。

